



# やあ!!

1997  
MAY  
No.49

5



## 市町村文化財紹介 上三川町

### 吉田流神楽

吉田流神楽の起源は、かつて上郷神社の宮司であった森野氏の祖先である森野和泉守利政が、元禄年間下総国（今の千葉県北部及び茨城県の一部）に出向いてこれを学び、当地に伝えたという。

吉田流神楽の内容は、天照大神を中心とした神々の威厳と徳を称賛して、天下泰平、五穀豊穣、家内安全を祈念するものである。

昭和28年に地元の人達によって神楽の復興がなされ、多忙な農業の中、郷土芸能を後世に伝えるために数百年來の古い衣装と面をつけて常に練習を続け、後継者の育成に努めている。

### Shinto Dance of the Yoshida School (Kaminokawa Town)

The origins of the Shinto Dance of the Yoshida School dates back to the Genroku Era (1688-1703) when an ancestor of the chief priest of the Kamigou Shrine, Morinoizuminokami Toshimasa, then on a journey to Shimousanokuni, (in present day localities, the northern region of Chiba Prefecture and one part of Ibaraki Prefecture), learned this dance enroute and introduced it to the Kaminokawa Town region upon returning from his journey.

The contents of the Shinto Dance of the Yoshida School primarily centers around Japan's first god, Amaterasu. However, it offers praises of goodness and dignity to numerous gods while praying for peace to descend from the heavens, an abundant harvest of the five grains [wheat, rice, beans, millet (awa and kibi)], and safety for the family.

In 1953, due to the desire to pass on the traditions of their hometown to the next generation, the Shinto dance experienced a revival. Despite the pressures of agricultural work, the townspeople donned in the traditional costumes and masks of hundreds of years ago, continually and fervently trained their successors to carry on the tradition. The enthusiasm for this Shinto dance continues to this day.

ようこそとちぎへ

青年海外協力隊帰国隊員による派遣国紹介  
シリーズNO.5

## マーシャル諸島

平成9年度県費留学生  
中国から県国際交流員

- ◆ トピックス  
とちぎコミュニケーションネットワークの集いで折り紙講習  
栃木県高校生がフランスで高校体験通学とホームステイ
- ◆ JETコーナー  
外国語指導助手サマンサ・フェントンさん
- ◆ 国際交流学校訪問  
市貝町立市貝中学校
- ◆ こんな店あんな店  
タイ料理 スコータイ

TIAホームページ

URL <http://www.pto.co.jp/tia>

# JETコーナー

外国語指導助手  
サマンサ・フェントンさん  
(25歳・イギリス出身)



私の名前はサマンサ・フェントン、イギリスのウェストミッドランズにあるウルヴァーハンプトン出身の25歳です。私の町は、最近、イギリスで最も住みたくない所の上位にみごとにランクインしましたが、そんな批評は、ブラックカントリーとして知られる大工業都市のミッドランズ地区にとっては珍しくありません。ミッドランズ出身者はかなり方言がきついため、イギリスの有名お笑いタレントから発声法の先生たち（方言を標

準語に直す）までもが「笑いのねた」として使っています。しかし、地元の人はそんなことは気にもとめていません。ウルヴァーハンプトンから電車で20分のところにあるバーミングハムは、ロンドンに次ぐ大都市で名門大学がある所として名を連ねています。

黒羽町とその素晴らしい風景は、そうした私の町とはかなり違います。ここでの滞在も2年目になり、私にも芭蕉が2週間滞在した後、この町に魅せられ、素晴らしい俳句を詠んだ思いが実感できます。私が日本の中で特に気に入っている場所は、静かなたたずまいの雲巖寺です。黒羽町での生活のなかで、自然美学の鑑賞の仕方を教わりました。

黒羽町の人々は面倒見が良く、優しく、とても親切です。私にたくさんのこと教えてくれた教育委員会の同僚のことを、いつまでも忘れず懐かしく思い出すでしょう。

My name is Samantha Fenton. I am 25 years old and I come from Wolverhampton in the West Midlands in Great Britain. My home

town was recently nominated as one of the worst places to live in Britain. However, such criticism is nothing new to the Midlands, which has always been an industrial area and is also known as the Black Country. People from the Midlands have quite a strong accent which has been the focus of many a diatribe from British popular comedians to elocutionists. But Wulfrunians take it in their stride. Birmingham which is only a 20 minutes train ride away from Wolverhampton is classed as the second city after London and is a vibrant place with a good university.

Kurobane and its wonderful scenery was therefore quite a contrast to my town. I am now in my second year here and can understand how Basho was inspired to compose such beautiful haiku after his two weeks stay. Undoubtedly my favourite place in Japan has to be Uganji Temple which is so tranquil. Life in Kurobane has made me appreciate the beauty of nature. The people of Kurobane have been incredibly kind, gentle and hospitable. I will miss my Board of Education colleagues the most of all they have taught me so much and I will never forget them.

## トピックス TOPICS

### とちぎコミュニケーション ネットワークの集いで折り紙講習

去る3月22日（土）、宇都宮市のプラザイン・くろかみで、「第1回とちぎコミュニケーションネットワークの集い」（主催TIA）が開催され、同ネットワークのメンバーとその家族約50名が集まり、日本の伝統文化である折り紙講習を受けた。

とちぎコミュニケーションネットワークは、在県外国人のネットワークを作ること



▲坂本講師（左）の説明を聞きながら熱心に折り紙を折る参加者

を目的として、1994年からメンバーを募集しており、現在100名を越える外国人が登録している。

折り紙の講師は「折り紙・クラフト館（株）紙忠」の坂本美世子氏。花柄の折り紙数枚を巧みに使って作る「花籠」と、鮮やかな金色がポイントとなる大きな折り紙を巧みに折って作る「兜」の2つを、分かりやすく説明した。難しい折り方に最初は戸惑いながらも、参加者は徐々に形が変わっていく紙の芸術に驚きの声を上げていた。

講習後のパーティーでは、メンバーがお互いに自己紹介や、様々な情報交換を行い和やかな雰囲気で交流を楽しんだ。

### 栃木県高校生がフランスで 高校体験通学とホームステイ

今回で4回目を迎えた「栃木県日仏青少年短期研修事業」で、栃木県内の5名の高校生（前号で紹介）が、3月11日～24日にフランスのパリとヴォークリューズ県を訪れ、高校体験通学をはじめ、ホームステイや各種見学などを行った。

一行はパリ市内と近郊を見学したあと、栃木県と友好交流を続けている南仏・プロヴァンス地方のヴォークリューズ県へ赴



一緒にホストシスター（水道橋）を見学したボーン・ブランデラユザガと

き、同県議会の歓迎を受けたあと、ホームステイに入った。

ホストファミリーは、昨年秋にこの事業で栃木県が受け入れたヴォークリューズ県の高校生たち。日本で受けたすばらしいもてなしに負けないようにと、5名の高校生を温かく迎えてくれた。

体験通学を行ったのは、ローマ時代の古代劇場の遺跡で有名なオランジュ市にあるアルク高校で、それぞれがホストシスター・ブランデラユザガなどが受ける授業に参加。生徒が積極的に発言したり意見を述べる姿や、校内の自由な雰囲気を見て、日本とフランスの違いを感じ取った。その他、県内外の歴史的な建造物、中世から変わらぬ町並み、そして南仏の美しい自然を堪能した。

家族同然となったホストファミリーに涙ながらに別れをつけ、数々の思い出を胸に一行は日本への帰途についた。

# ようこそとちぎへ

welcome to Tochigi

## 平成9年度 県費留学生

4月7日(月)、県費留学生を乗せた飛行機が成田空港に到着した。今年度の県費留学生は新規3名、継続1名の計4名で、全員ブラジル人。現在、宇都宮大学と白鷗大学で勉強している。

- ①年齢 ②出身 ③研修科目 ④留学先  
⑤メッセージ (敬称略)

### [新規留学生]

#### 西山マルガレッテ小百合



①30 ②ブラジル・サンパウロ市 ③国際法  
④白鷗大学法学部 ⑤私はブラジルで学んだ国際法をもっと深く勉強したいと思います。そして日本の社会、文化を学んだりして、この留学期間に沢山の

#### 栃木県国際交流員 (中国語担当)

#### ベン 愛平さん (39歳)



平成8年度の栃木県国際交流員として1年間栃木県国際交流課で勤務された于紅さんに代わり、この4月から後任として、卞愛平さんが1年間、栃木県と浙江省の友好交流のために尽力されることになった。卞さんは生まれも育ちも浙江省杭州市というから、根っからの杭州っ子だ。

赴任する前は、浙江省对外友好協会で主に日本語の通訳として、民間レベルでの交流等に従事させていた。彼女の子供の頃の日本に対するイメージは、その当時中国には映画ぐらいしかメディアがなく、しかも

新しい友達と仲良くしたいと思います。できるだけ日本語を覚えて、日本の長所を学びたいです。どうぞよろしくお願ひいたします。

#### 藤本ファチマ重美



①29 ②ブラジル・リオデジャネイロ市 ③日本語教育 ④宇都宮大学国際学部 ⑤リオデジャネイロ連邦大学を卒業してから、初級の学習者に日本語を教え始めました。これから日本で学ぶことを少しでも生徒たちに教えたいと思っています。日本語もそんなに上手ではありませんし、日本の習慣にもまだ慣れていませんので、いろいろお世話になることと思います。どうぞよろしくお願ひします。

#### 菅谷リリアン南美江



①22 ②ブラジル・ベレン市 ③応用生物学 ④宇都宮大学農学部 ⑤日本に来て初めて桜の花を見ることができたので、とてもうれしく思います。子供の頃から父や母に日本のことを聞かされていましたので、いつか自分は留学生として行っ

戦争映画だったので、その中に登場する髪を生やした軍人という印象が強かったそうだ。日本語に直接触れることになったのは高校からで、当時、外国語として日本語を科目として置いている学校は少なかった。しかし、彼女のいた学校では外国語の中に日本語があり、高校時代から英語を学ぶ替わりに日本語を学んだという。高校の日本語の先生は40年代に通訳をしていた人だった。高校を卒業し大学に進学する時、卞さんの母親が医大の教授をしていたこともあり、医者の道を歩むよう勧められたそうだ。しかし、卞さん自身もっと日本を知りたいということで、杭州大学の外国语学部の日本語コースに入学したという。1クラスのみのコースだったので競争率も激しかった。

卒業後は、新設の浙江省旅遊学校という日本でいう観光専門学校の講師として6年間従事し、観光日本語を教え、国内の案内をする通訳ガイドの養成にも力をいれた。以前、海外技術研修員として、栃木県で研修していた張冰さんも卞さんの教えた生徒

て、親たちの母国を知ってみたいと心に決めていました。皆様がチャンスを与えてくださったおかげで、目的を叶えることができました。これから研究するテーマ、日本の文化、その他色々なことを学んでいきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

### [継続留学生]

#### 中見川めぐみ



①26 ②ブラジル・ペレン市 ③情報工学 ④宇都宮大学工学部情報工学科 ⑤異国文化や技術を学ぶため日本に来て1年になりました。これまでの生活と勉強を振り返ると、大学の先生方のご指導及び研究室の仲間の応援のおかげで、毎日の生活が充実していたことに気づきます。研究はこの春から新たな形でスタートします。今後も忙しい日々を楽しく過ごせるように勉強に励んでいきたいと思っています。また、同じブラジルからの留学生と一緒に頑張っていきたいと思います。たぶん最初のうちは悩みや苦しみが沢山あると思いますが、できる限り私の体験や意見を伝えてあげたいと思います。これからも皆様には色々お世話になることが多くあると思いますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

だったそうだ。その後は、浙江省文化交流協会で主に日中の文化交流でさまざまな交流のお手伝いをしていた。

来日は今回で4回目となる卞さんだが、長期の日本滞在は初めてという。栃木県の印象は、人々は親切で、熱心さが見られるとのこと。中国に10歳になる子供を残して来日したわけだが、「最近は、過保護過る傾向があるので、しばらく離れていたほうが逆にいい」という。宇都宮市以外の町にも行ってみたいし、また、日本ぜひ中国の民族音楽を紹介したいと意欲満々。彼女は書道、絵画、陶芸などにたいへん興味があるらしいが、自分でも作ったりするとの問い合わせには、「見ることが好きなので、作るのはちょっと…」と謙遜していた。

はきはきと自分の経験や意見を述べ、始終、圧倒される感じを受けたが、さすが中国女性のイメージ通り、しっかりしたしかもロジカルな話し方で、好印象を持った。これからもいろいろな場面で活躍されると思うが、大いに期待しよう。

# マーシャル諸島 Marshall Islands

19世紀末にこの地を探検したマーシャル船長の名に由来するマーシャル諸島は、日付変更線の西方、赤道の北に位置し、900を越える環礁島からなる。

日本はマーシャル諸島を第一次世界大戦から第二次世界大戦までの期間、占領・統治していた。現在もその子孫が残っている。

また、ビキニとエニウェトクの両環礁は、1940~50年代、アメリカの核実験場として被爆し、国際問題になった。

## 案内人

佐藤佳世さん (28歳) セントメリーニュージャパン語学院教師



1994年12月から1996年12月まで、マーシャル諸島の首都マジュロで、青年海外協力隊の日本語教師として活躍。

以前に勤めていた会社の外国人労働者が、言葉が通じなくて大変そうだったのを見て、日本語教師になる決意をする。1年間東京で日本語教師養成講座を受けた後、協力隊に参加した。

## 苗字が「チュウタロウ」

私は首都マジュロにあるマーシャル諸島唯一の大学「マーシャル諸島短期大学」の講師として、日本語を教えました。日本語は必修ではなく選択で、一般教養の一科目です。学期は1年3期で、各学期に30~40名の学生がいましたので、2年間で200名を越える学生に教えたことになります。マーシャル諸島には協力隊の日本語教師がもう一人いまして、彼女はマーシャル高校で教えていました。

この国は歴史的にいくつかの国に統治されています。古くはスペイン、その後ドイツ、第一次世界大戦後は日本、そして第二次世界大戦後はアメリカです。このような状況なので混血が多いです。話す言葉を見ると、今の子どもの祖父母がマーシャル語と日本語、父母がマーシャル語と英語というのが普通です。現在日本語はまったく使われていません。ただ、日本統治時代の名残で、苗字がなんと「チュウタロウ」「マサオ」「キンタロウ」などという人がいます。名前ではなく苗字になっているところがおもしろいですね。また、「デンキ」「サンボ」等、日本語がそのままマーシャル語になっているものもあります。

日本語への興味に関するアンケートを学



授業で福笑い。これが大ウケ

生に行ったら、今話しました「名残」のためか、興味を持っている人が多いことは分かりましたが、その域を越えてはないようです。

## 質問の答えがみんな同じ

アメリカ人教師が小学生から英語を教えているので、彼らは話せますが、文法的にはひどいです。文法が苦手の彼らに日本語を教えるにあたり、私は極力難しい内容を避け、最小限のことを教えようと心掛けました。

マジュロは車で1時間程で端から端まで行けるような小さな環礁島で、特にこれといった娯楽施設もないのに、「昨日どこへ行きましたか」とか「休みに何をしましたか」という質問に、返ってくる答えがみんな同じで幅がありません。一応能力別クラス編成をしていましたが、どのクラスもあ

まり変わりません。授業中はおとなしく、あまり発言しません。そしてできないとなるとすぐに諦めてしまう傾向もあります。そこで少しでも関心を持ってもらおうと、日本語のテキストは、絵を入れたり、現地の生活に合わせた内容を盛り込み作りなおしました。また、簡単なゲーム

をしたり、茶道・書道・日本の歌・日本食等の文化紹介を取り入れ、楽しく授業を行いました。その中でも、日本のスポーツは特別で、柔道、空手、相撲（NHK放送が入ります）に大変関心がある他、更にビデオテープでも出ている「忍者・侍」ものはかなり人気があるようです。

## 日本語は将来役に立つ

マーシャル諸島には就職先が少ないので島を出て、ハワイやアメリカ本土に出稼ぎに行く人が多いです。日本語で就職しようと何もしない状況では、日本語を積極的に学ぼうとする気もなくなってしまいます。日本の文部省の留学生として日本語を勉強して帰国した人がいますが、全然活用していません。「本当にこの国で日本語は必要なのだろうか」と疑問に思ったりしましたが、教育省の人達の話では、「2000年にアメリカの財政援助が切れてしまうので、その後は財源確保のために観光業に力を入れていくだろう。そうなると日本からの観光客がかなり増えるに違いない」とのこと、日本語は近い将来必ずこの国に必要になると考えられています。



▲女性が着る華やかなワンピース

短大で日本語を教える佐藤さん

## マーシャル諸島図



## 産休を取る高校生

マーシャル諸島の女性は、一般的に派手な柄のワンピースを着ます。良い布を使い自分で作ります。キリスト教の影響で太股や肩は見せません。一方男性はTシャツにズボンが普通です。

食べ物に関しては、主食は輸入米です。マーシャル諸島の土壤は農業に適していませんので、野菜も輸入です。輸入航空便の関係で、スーパーマーケットから野菜が全くなくなることもあります。でも、ヤシの木は豊富で、その実には飲物と果肉が詰まっています。またよく食べるパンの実は、焼くと芋のような味になります。果物ではバナナ、パパイヤ、パンダナス（パパイヤに似ている）などがあります。蒸したり茹でたりして料理に使うこともあります。このヤシ、パン、果物類は自分の家の敷地内にある場合が多いです。その他、魚は茹でたり、焼いたり、揚げたりして塩や醤油をかけて食べます。醤油はとても人気があるんですよ。

こうしたローカル・フードの他に、実際によく食べられているのが、アメリカから輸入している缶詰のコンビーフやシーチキンです。これをご飯にかけて食べるだけ。とても簡単ですね。

次に宗教・文化についてですが、キリスト教徒が殆どで、日曜には協会に行きます。クリスマスは国の大イベントで、歌と踊りで盛り上がります。マーシャル諸島の民族舞踊「ステイック・ダンス」は、文化の日に披露されます。



民族舞踊「ステイックダンス」



ダイビングに挑戦する佐藤さん

首都マジュロと米軍基地があるクワジエリン環礁の近くのイバイは、アメリカ文化が大量に流入してくるところです。テレビ番組もアメリカのものがほとんど。更にこの国の流通はアメリカ=ドルなので、すべてにおいてアメリカ化していると言っていいでしょう。

物価は比較的高く、日本と同じ値段の物もあります。子供が10名という家族が普通ですので、安い給料と物価高では生活は大変です。人口の増加が著しいのですが、その理由の一つに、未婚の母が多いことが挙げられます。それも高校生。なんと産休を取って育児をする高校生が多いんですよ。でもここでは当たり前のことのようで、誰も気にしません。

## ダイビングと戦争跡

観光化が殆ど進んでいないので、なかなか見どころがないのですが、海が綺麗なのでダイビングは結構盛んです。私も滞在中にライセンスを取りました。ビキニの沈船ダイブが有名で、各国から潜りにきます。

その他、観光と言えるかどうか分かりませんが、大

▶マーシャルの環礁島を空から眺める。（右写真）島と島を繋ぐ連絡飛行機



戦期の日本軍の遺跡である零戦、大砲、戦車、滑走路、砲台などがそのまま残されているので、当時の戦争の様子を伺うことができます。それともうひとつのオススメは、満月時の環礁の内側クルーズ。とてもロマンチックですよ。

アメリカがビキニの補償金、基地の借料、援助金を支払っているので、今のところ財源は何とかなっていますが、主な産業がヤシの実から採るコプラ（ヤシ油の原料）だけという現状では、アメリカの援助がなくなる2000年からどうするのか心配です。何でもアメリカに依存しているのを見て、本当にこれでいいのかなと感じました。また問題意識を持つことがなく、例えばゴミ問題にも無関心で、平気で何でもそこら中に捨ててしまうんです。いけませんよね。



▲林のなかに静かに眠る零戦

## データ



【国旗の意味】

オレンジは勇気を、白は平和を意味する。左上にあるのは白い太陽で、そこから24本の光が放たれている。24はこの国のある地区の数。

## マーシャル諸島共和国

- ① 面 積 181km<sup>2</sup>
- ② 人 口 5万人 (94年)
- ③ 首 都 マジュロ
- ④ 主要言語 マーシャル語、英語
- ⑤ 宗 教 カトリックが多数
- ⑥ 建 国 1986年にアメリカの信託統治領から独立
- ⑦ 通 貨 アメリカ=ドル
- ⑧ 元 首 大統領
- ⑨ そ の 他 協力隊員の派遣人数31人  
栃木県からは1人

## こんな店 あんな店

### タイ国料理&タイスキヤキ スコータイ

開店して4年経つスコータイは、以前、元今泉にタイを中心とした東南アジアの食材を扱う店として営業していた。現在のこのお店は、タイスキヤキやタイ料理を味わえる店として、タイに滞在した経験を持つ人達に大変人気がある。60種類以上にも及ぶ料理の豊富さと、本場タイのレストランで出されているそのままの味が、ここ宇都宮で楽しめるのだ。これらの料理は、マス



▲タイの民芸品が飾られた店内



▲食欲をそそるタイ料理の数々

ターである眞家さんとタイ人の奥さんの2人でやっている。

もしタイ料理を吃るのは初めてという方なら、3~5人用のコース料理(12,000円)がお勧め。肉あり、魚ありのバラエティに富んだメニューで思う存分味わうことができる。また、マスターが自信を持ってお勧めするタイスキヤキは、バンコクのシリウォンと同じ秘蔵のタレで味わう本格的なもの。具はもし足りなければ、追加もできるという。他に、タイ料理のセットメニューもあり、気軽に楽しみたいという方にぴったりである。

その他、デザートのトロピカルフルーツは、日本でなかなか食べられないような南国フルーツが味わえるとあって、大変好評のようだ。

この店なら、きっと食いしん坊のあなたも食べたいものに出会えるので、ぜひお気に入りのタイ料理を発見されてはいかが。

▶営業時間=PM5:00~AM3:00(火~土)、  
PM5:00~PM11:00(日)／月曜定休 ▶住  
所・電話=宇都宮市東宿郷4-5-11ソーラハ  
イツあづさ1階 ☎028-637-8440

## 知ってて得する なんでもQ&A

### [海外送金について パートⅠ]

仕事や留学で海外に在留している方への送金、個人輸入や外国の雑誌購読などの支払等のための送金は、主に郵便局や銀行からできます。

ここでは、郵便局からの送金を例に取り上げます。

郵便局からの国際送金の方法は、為替証書を受取人の住所に航空便で送る方法と、送金人の郵便振替口座から受取人の口座へ振替送金をする方法の2種類があります。

長期滞在の場合、まとまった金額を必要とすることが多いですが、事故防止のために、現金を携行するよりも送金することをお薦めします。詳しくは最寄りの郵便局までお問い合わせ下さい。

## 国際交流団体紹介

### 市貝町立市貝中学校

市貝町立市貝中学校(金田公男校長)の生徒10名が、去る2月24日~3月5日の10日間、フランスを訪れ、ヴォークリューズ県カルパントラ市のファーブル中学校で、体験学習等を行った。

同町ではかねてから、英語圏以外の国への中学生海外派遣を検討していた。そんな折、栃木県がヴォークリューズ県と高校生の相互派遣プログラムを行っているのを知り、ぜひ中学生レベルの交流を実現させたいと、町、教育委員会、そして町唯一の中学校である市貝中学校の3者が実施委員会を組織し、ヴォークリューズ県の中学校への派遣事業を実施することとなった。

派遣定員10名のところに52名の応募があった。作文や面接等の選考を経て、男子2名、女子8名が決定した。

金田校長と同校教諭の計2名が引率となり、派遣団はフランスへ向けて出発。パリ市内外の視察のあと、カルパントラ市のファーブル中学校を訪問した。一行は歓迎会でホストファミリーと対面し、2泊のホームステイに入った。

次の日から2日間、同中学校で体験学習を行う。10名は、音楽、生物、英語、体育美術等の授業に参加した。「生徒たちは本当に楽しそうに授業を受けていました。覚えたフランス語で自己紹介をしたり、先生に指されて答えたり。フランス人の生徒たちも、日本人が珍しいのか大変興味を示していました。生徒たちが慣れない環境でどうするのか心配していましたが、フランス人の生徒たちと楽しく交流する姿を見て、そんな心配は無用だったと思いました」と金田校長は話す。



▲ファーブル高校で英語の授業を受ける



▲派遣された10名の生徒(右端・金田校長)

体験学習のあとは、県スポーツセンターに移り、ハイキングで自然に接した。またヴォークリューズ県の歴史的な建築物を見学したりした。

参加した10名の生徒たちの感想は、体験学習関係では「授業中の生徒たちの積極的な態度に驚いた」「年齢、男女に関係なく皆仲良しだった」「英語の授業で先生が英単語の意味を説明するのに英語で行うのを見て、こうしてくれると語彙力があがるのではないかと思った」など日本の学校との違いについて、またホームステイ関係では「家族と一緒にいる時間が多く、温かい雰囲気だった」「明るく話しかけられ、家族のように接してくれた」とフランスの家庭の温かさについてであった。

市貝中学校は、今年度もファーブル中学に派遣する予定である。

# 情報発信 地域の国際交流案内

## ★青年海外協力隊春募集

▶募集期間=1997年5月31日まで(消印有効) ▶応募資格=満20歳から満39歳(1997年5月31日現在)までの日本国籍を持つ方 ▶応募方法=所定の願書及び健康診断書を協力隊事務局に提出 ▶選考試験=①1次選考…1997年6月15日(日)、筆記試験(技術・英語・適性テスト)と健康診断(書類審査)、②2次選考…1997年7月23日~31日の指定日、面接試験(個人面接・技術面接)と検診 ▶訓練=合格者は出発前に約80日間の国内合宿訓練 ▶派遣国=アジア、アフリカ、中南米、中近東、大洋州、東欧の50数カ国 ▶派遣期間=2年間 ▶赴任形態=単身赴任 ▶応募先・問い合わせ=国際協力事業団青年海外協力隊事務局国内第二課/〒163 東京都新宿区新宿郵便局留 03-5352-7261

## ★日系社会青年ボランティア募集

移住促進を目的とした「海外開発青年」に代わり、昨年度から実施されている「日系社会青年ボランティア」は、中南米の日系社会のなかで技術協力等の奉仕活動をするものである。 ▶派遣国=アルゼンチン、ボリビア、ブラジル、ドミニカ、メキシコ、コロンビア、パラグアイ各国の日系団体等 ▶派遣期間=3年間 ▶応募資格=満29歳から39歳(1997年4月1日現在)までの日本国籍を持つ方 ▶募集人員=50名 ▶派遣職種=農林水産部門、工業技術部門、教育文化部門、医療福祉部門 ▶選考試験=①1次選考…1997年7月6日(予定)、筆記試験(語学・専門技術)、適性検査、②

2次選考…1997年8月18日~20日の指定日、面接試験(人物・専門技術)、健康診断 ▶訓練=1997年10月31日~12月20日 ▶出発=1998年2月26・27日(予定) ▶応募方法=申込書及び技術経歴申告書を郵送 ▶募集期間=1997年5月31日まで(消印有効) ▶応募先・問い合わせ=国際協力事業団関東支部/〒336 埼玉県浦和市北浦和4-5-5 北浦和大栄ビル7階 048-834-7770

## ★国際ワークキャンプ参加者募集

国連加盟N G Oの国際ワークキャンプ日本事務局(N I C E)は、1997年の国際ワークキャンプ参加者を募集している。 ▶内容=世界中の若者が2~3週間一緒に生活しながら、地域の人達と環境や福祉のボランティアを行う。約60カ国、1600カ所で開催(例:日本、タイ、フランス、ペラルーシ、ウガンダ他) ▶参加資格=18歳以上で英語力片言以上。ボランティアに意欲と行動力を持つ人。 ▶資料請求=1000円分(日本・東アジアのみなら300円分)の切手を事務局へ郵送 ▶締切=1997年5月22日(追加募集もあり) ▶問い合わせ=N I C E 〒160 東京都新宿区新宿2-2-1-501 03-3352-7727

## ★国際理解セミナー「開発教育」の開催

国際理解教育を進めるために必要な心構え、またそのアイデアや方法を学ぶ「あたらしい国際理解セミナー~開発教育~わから地球人パート3」が開催される。 ▶期日=1997年6月14日(土)9時~15日(日)15時半 ▶場所=宇都宮市冒險活動センター ▶参加費=5000円 ▶定員=30名 ▶対象=国際理解教育担当教員、N G O関係者、その他興味を持つ一般県民 ▶問い合わせ=開発教育ネットワーク・担当大浦(Y M C A教育センター内) 028-634-8581

# TIA日誌

1997年3月1日~1997年4月30日

- 3/2 栃木県海外移住家族会南米料理交歓会(総合コミュニティーセンター)
- 3/2 日仏青少年短期研修事業高校生フランス派遣結団式(自治会館)
- 3/8 県費留学生及び海外技術研修員送別会(協力隊O B会等主催/くろかみ)
- 3/11 日仏青少年短期研修事業高校生フランス派遣(～24)
- 3/12 県費留学生及び海外技術研修員修了式・送別会(くろかみ)
- 3/22 とちぎコミュニケーションネットワークの集い(くろかみ)
- 3/24 県費留学生及び海外技術研修員帰国
- 3/25 第17回TIA評議員会(自治会館)
- 3/27 第20回TIA理事会(ニューミクら)
- 3/28 日仏青少年短期研修事業高校生フランス派遣帰国報告会(自治会館)
- 4/7 県費留学生入国
- 4/8 県費留学生TIA表敬
- 4/16 前期日本語講座開講式(研修室)
- 4/17 青年海外協力隊募集説明会(宇都宮市)

- 4/21 県費留学生知事及び部長表敬
- 4/25 青年海外協力隊募集説明会(足利市)

## 第20回理事会・第17回評議員会(3月開催)における承認事項

- 1 平成8年度財団法人栃木県国際交流協会収支予算の補正について
- 2 平成9年度財団法人栃木県国際交流協会事業計画について
- 3 平成9年度財団法人栃木県国際交流協会収支予算について
- 4 財団法人栃木県国際交流協会副会長の委嘱同意について(理事会のみ)

## 宇都宮↔成田空港

(直通高速バス マロニエ号)

空港ターミナル出発口ピーハー2時間50分!

### ●運賃・片道

大人 4,070円

小人 2,040円

●15名様以上団体割引

●お問合せ・ご予約は

マロニエ予約センター または関東バス各営業所へ  
☎(028)638-1730

成田空港ゆき		宇都宮ゆき	
宇都宮発	成田空港着	成田空港発	宇都宮着
5:10	8:00	8:30	11:20
6:10	9:00	14:40	17:30
8:30	11:20	15:40	18:30
10:10	13:00	17:00	19:50
12:00	14:50	18:10	21:00
14:00	16:50	19:40	22:30

## 第63回定期演奏会

曲目 ワグナー 「リエンツィ」序曲  
チャイコフスキイ ヴァイオリン協奏曲  
ブームス 交響曲第1番

指揮 沼尻竜典



ソリスト 堀正文  
(NHK交響楽団ソロ・コンサートマスター)



6/15 (日) PM 2:00 ▷宇都宮市文化会館大ホール  
全自由席 ¥1,500 小中高 ¥800 宇都宮市内プレイガイドにて前売  
お問い合わせ 栄響事務局 028-623-3422

# TIA Information Corner

## ★初級日本語講座開講中

▶対象=在県外国人 ▶期間=1997年10月8日まで／毎週水曜日午後6時～午後8時  
▶場所=TIA 3階研修室 ▶受講料=無料（ただしテキスト代は実費）▶申込み及び問い合わせ=TIA日本語講座係☎028-621-0777

Japanese Language Lectures for beginners  
Participants : Prefectural foreign residents  
Term : Every Wednesday from 6:00 to 8:00 pm until October 8  
Location : The third floor of the TIA  
Fee : Tuition is free, but students must purchase the textbook.  
Please call the TIA at 028-621-0777 to enroll.

## ★1997年度第1回国連英検

▶試験日=第1次試験…7月6日（日）、第2次試験…8月17日（日）（特A、A、B級のみ）▶受験地=宇都宮大学峰キャンパス ▶検定料=特A級・7300円、A級・5100円、B級・4000円、C級・2800円、D級・1600円、E級・1300円 ▶申込み=申込用紙（郵便振替用紙）に記入し、郵便局で検定料を振り込むか郵送する。用紙はTIAで配布 ▶試験方法=第1次試験…特A級、A級、B級は筆記試験のみ（120分）、第2次試験…面接前に面談シートへ所要事項を記入し、ネイティブとのフリートーキング（7分～15分）。C、D、E級は筆記試験と一部ヒアリングでC、D級が90分、E級が80分。

## TIAライブラリー案内

### ●アジアのうねり／開発教育（ビデオ）



フィリピンからの研修生を主人公に、外国人労働者の現状と課題を紹介。またフィリピンの家族の様子、ゴミ処理場スマーキーマウンテンで働く子供たちやNGOの活動も描かれている。開発教育のためのビデオ教材で、対象は中・高生及びその指導者。（制作：APIC）

### ●それいけ！アンパンマン～えいごであそぼう（ビデオ）



このビデオは、幼児期に英語を学び始める早期教育の利点を考え制作された。人気者のアンパンマンが、おもしろおかしく、英語の世界で活躍する内容で、子供が無理なく英語に親しむことができる。全4巻。（発行：リングフォンジャパン）

### ●地球ライブラリー／暮らすシリーズ



出発の準備から現地での生活まで、日本人滞在者による生きた情報が満載された「暮らすシリーズ」。海外で長期滞在する人に、とても役に立つ内容が書かれている。都市はアトランタ、

ピューストン／ダラス、ロサンゼルス、トロント、サンフランシスコ／サンノゼ、香港、マニラ、ジャカルタ、バンコク、シドニー、ロンドン、パリ、デュッセルドルフ、オスロ、ミュンヘン、マドリード／バルセロナ、ミラノ、サンパウロ／リオデジャネイロ、メキシコ、ナイロビ、ウィーン。（発行：ジェトロ）

## TIAの事務局長に高橋義光氏



前任の石塚事務局長の後任として、栃木県商工会議所連合会常務理事から高橋義光氏が財団法人栃木県

国際交流協会の事務局長に就任した。  
なお、石塚氏は事務局顧問に就任した。

## TIA賛助会員募集中！

賛助会員になりますと、TIAの機関紙、各種刊行物、催事情報等が受けられます。またテレビ方式変換ビデオ（海外→日本、日本→海外）をご利用できます。その他会員証の提示により、指定店での割引等の特典もあります。年会費は個人3,000円、団体10,000円、法人30,000円。※賛助会費と出捐金の運用益は、TIAの様々な事業に使われており、地域の国際化のために役立っています。

## TIAご案内図



編集・発行 財団法人栃木県国際交流協会

住所 〒320 宇都宮市昭和1-2-16 栃木県自治会館1階

T E L 028-621-0777 (代表) 028-627-3399 (相談専用電話)

F A X 028-621-0951

業務時間 8:30～17:15 土曜・日曜・祝祭日・年末年始は休業